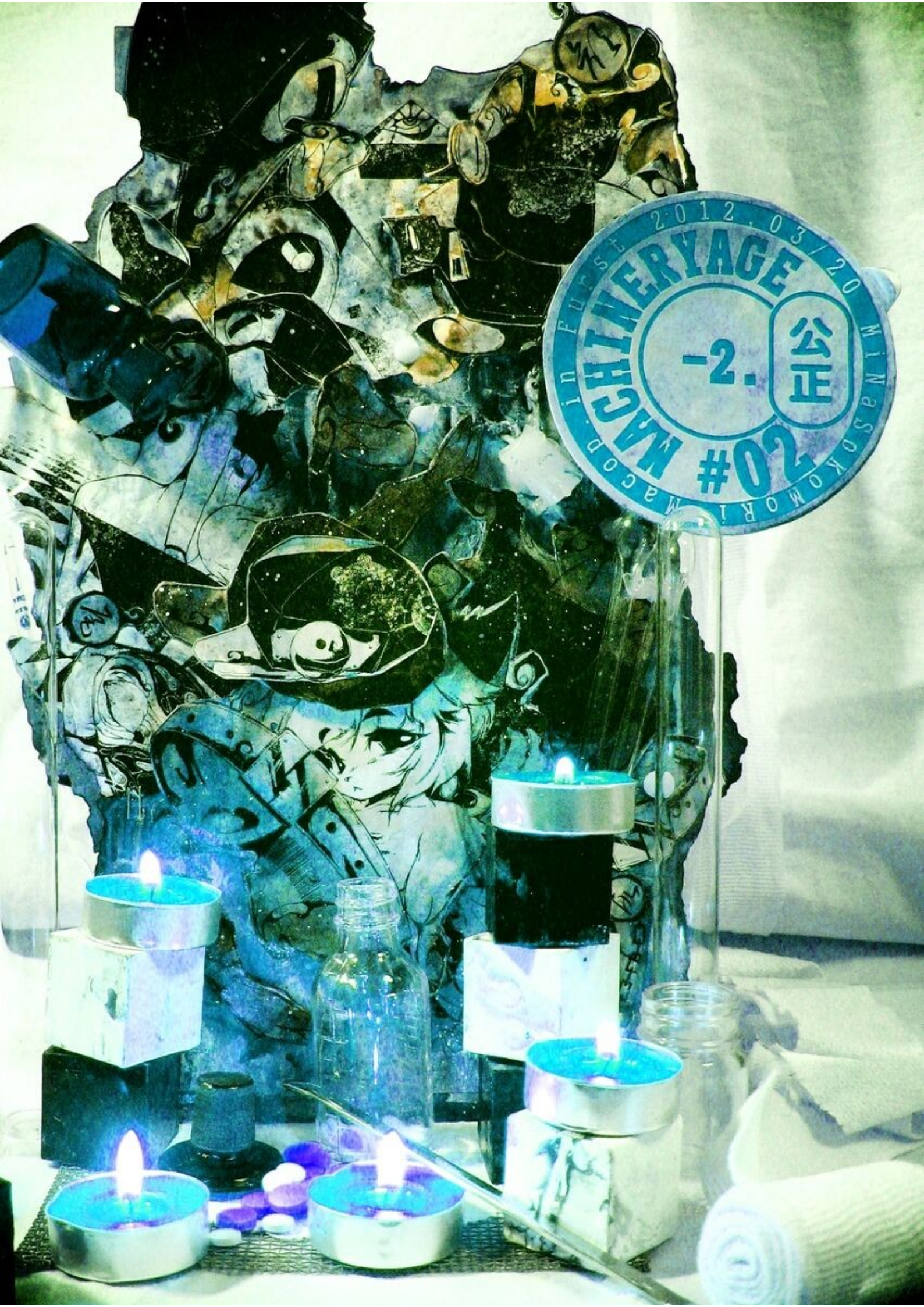




この城を出て
最初の角を曲がる時
お前は知ることになるだろう

此処の全てのモノは意志を持ち
互いの心の領土争いをしている

姿形を違えても
我らは皆兄弟である

ただしそれは
全てを奪い合い
やがて一つへ統合すべく定められた

最も嗜虐心に満ち
最も邪悪な兄弟である

求めれば喰われるだろう
失えば喰われるだろう

絶望と孤独の中で生きる
まだ透明な
そして黒い花を咲かせる種子たち





体が重い

目を覚ますと

体中に
絡みついて
いる
鎖が目に
入る

MachineryAGE

参・認識 / 檻

Macop.



この鎖は僕を
「僕」たらしめる
認識

「世界」と「僕」
を切り分ける
境界線

鎖で縛り上げられ
身動きできぬ
鈍重な「僕」

それは
とても不快で
不快で不快で

不快で不快で
不快で不快で
不快で



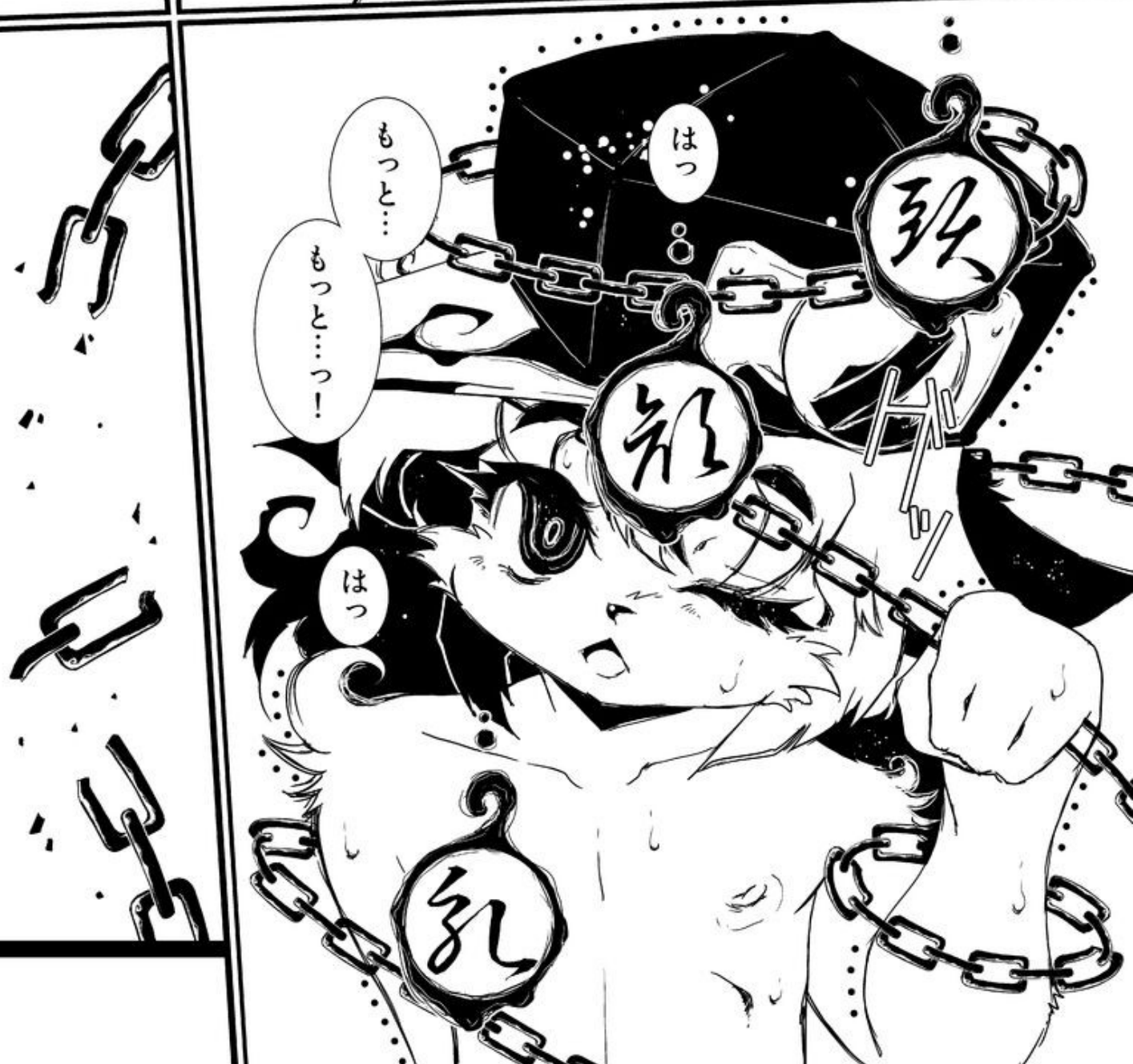
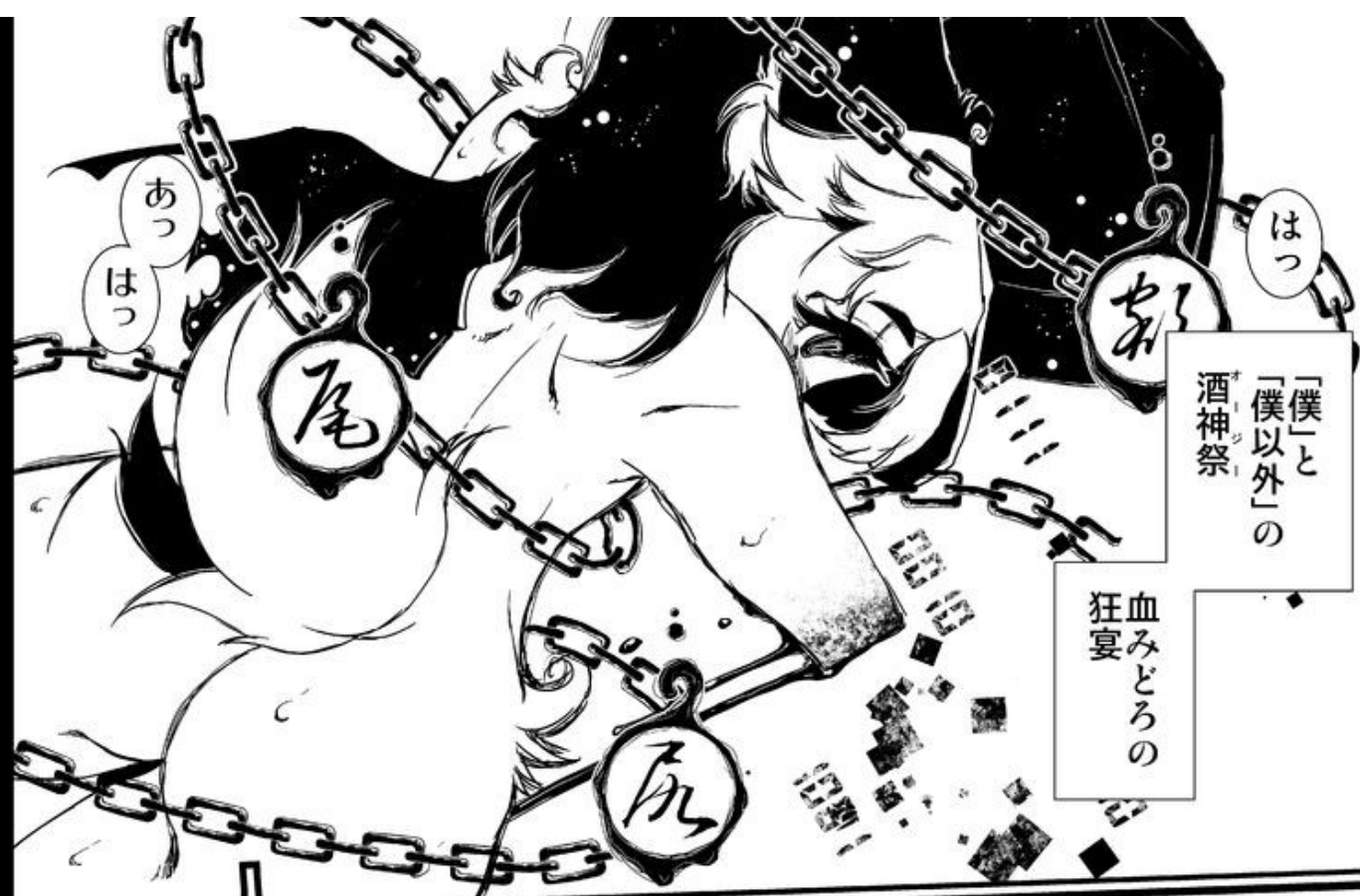
んっ!

はっ

はっ

身体が崩れ
世界に溶ける
痛みと

「僕以外」に
混じる
心地良さに
恍惚とする





僕と世界の
境界線が
消えてゆく

「僕」は
「僕」という
認識を失う

Fin.

ああ
きつとこれは
夢に違いない

でもこれは
一体何の
夢だろう



MachineryAGE

四・嬰兒ノ万能

Macop.

これは
何だろう



何か分からない
「それ」に腰掛け
あたりを
見回してみる

どこを見回しても
何も「無い」

あいたつ！

……
「無い」



直感的に
理解できる。

これは
僕の「無い」

抽象の具象



面白くなって
僕は色々な
抽象概念を
思い出してみる

僕の意志に応じて
様々な具象が
現れる

0011

1001

1111

1110

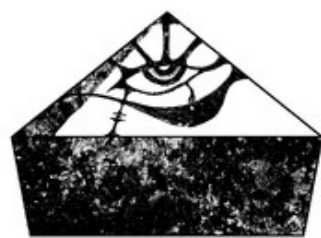
0010

0111

いたって
シンプルな
僕の中の
「嘘」や「平穩」

面白いが
自分のあまりの
平凡さに
やや呆れる

では
これは



Pin.



僕は
少しづつ
死んでいく

僕はもう
「僕自身」の
中心僅かしか
残っていない

薄
赤い
水



MachineryAGE

伍・貝ノ蜜月

Macop.



触れる手の
安らぐ感触

誰とも知らない
「彼」の手が僕の
身体に触れる



誰？



あなたは
誰ですか？

僕に触れている
あなたは
誰ですか？



あっ



返事の代わりに
唇に柔らかな
感触

彼は僕に
キスしている

僕は黙って
彼のまさぐる手と
唇に応える



外殻を失くした
僕の身体は
柔らかく脆く

「彼」に
触れられただけで
精液を漏らして
しまう



世界を満たす
薄赤い水に
僕の精液が
溶ける

あっ

自分の漏らした物の
匂いを嗅いで
僕は若干の
恥ずかしさを感じる

はっ



優しく広げられた
足の間に
ツルリとした
粘膜の感触

僕は「彼」の
しようと
している事を
瞬時に理解する

そして
僅かな恐怖を
感じる

剥き出しの
「僕の身体」に
そんなことを
されたら

んっ



僕の中に「彼」が
「彼」の中に僕が

沁み込んで
しまう

脆弱な僕は
「彼」と
混ざってしまう

僕は「彼」が
誰だかを知る

Fin.





鎖の音がする

また

MachineryAGE

六・外套膜

Macop.

ああ
目覚めの
頃合いだ

僕の体に
鎖が絡み付いて
くる

僕が「僕」を
取り戻していく



目を開ければ
僕の部屋

広い空間が
心許ない

もうあの
鎖も見えない







おっと

大丈夫？



……
うん……

抱き止められた
彼の胸の感触も
乾いて硬い



鎖の隙間
から覗き見る
ことしかできない
遠い世界

おいでよ
お茶が
淹れてあるよ

多分
ここが夢なんだ

Fin.



「妖精の眼」が欲しかったら

「遊び」と「祈り」が同じものだと

まず知らなければいけないね。

「考え」ながら

同時に「考えない」ができれば

そう難しくないよ

さありふう。





ブッダファック！
スガイさんの
今回の
コラージュは
祭壇めいて
ウツドフイッ
のショッギョ
ムッジョな
響き、コワイ！

ベキョ。

それが
作って
もらった
人間の言
うセリフ
かーっ！

そんなだから
友達いない
んだこの
ボッチ！

まーシラ。

ま、ワタクシれつきと
したニンジャハッズで
ありますからして
この言葉はスゴイ級賛辞
でありますアイエエ
ナンデ？
シュリケンナンデ？
：いや、なんつーか、
何この腹立ち。
自分でも分からん。
とりあえずさっさと
死ねよ。

表紙を作った下さった
サークル喜劇画報のスガイさん
ありがとうございました。

とりあえず上からの写真が
あんまりスゴイので
もったいないから
掲載させてもらう次第
この漫画1p描かずに
済んでラッキーとか
思っただろうな。

……..
思っただけじゃないでしょ
うん。



さておき。

マシーナリエイジ
の話をしたいが
犬がすごく大きく
なりました。
なにこれ超可愛い。

大きいっつか
長えなそれ。

体重13キロ

……ここから先の展開
考えてなかったろ。

分かったよ困ったときの
首吊りだろさっさと
やれよ。



ここは上のネタに
使われた余りコマです
ウヒヒイ。

僕今回一応主人公
なんだけど何で
犬のちんこ突き
付けられてんの。

この
クロノアモドキ
犯られキャラ

私の漫画の
キャラなんぞ
犬のちんこしゃぶって
「はあん♡犬ちゃんぽ
おいしいれふう」とか言

もう顔芸で誤魔化したいくらい
死にたいので死なせてくれ。



右肩と首が痛くて死にそうですサントマリア。

*** タイトル ***

MachineryAGE #02

*** 発行日 ***

2012, 3/20

*** 発行者 ***

サークル水底森 Macop. (まこぷ)

*** 印刷 ***

丸正インキ

*** Web ***

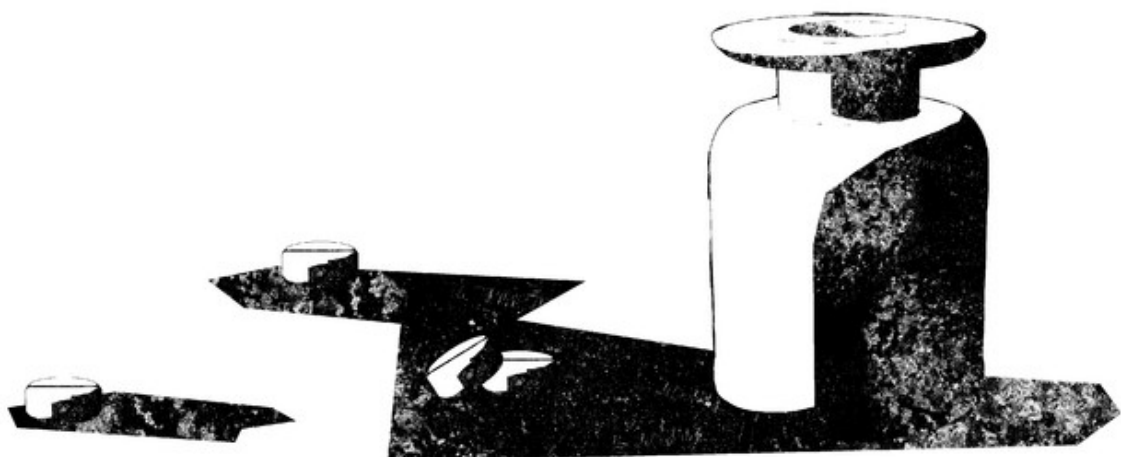
<http://macop.neko.ne.jp>

*** E-mail ***

macop_001@mail.goo.ne.jp

*** 表紙デザイン ***

サークル喜劇画報 スガイユウコ





MiNaSoKoMoRi

